

策定年度 2021年度

**長沼町地域農業再生協議会  
水田収益力強化ビジョン**

**長沼町地域農業再生協議会**

## 令和3年度長沼町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町農業は、食料の安定供給を基本に農地の保全と豊かな地域社会の形成など多様な役割を果たしながら、町の基幹産業として発展してきた。

しかしながら、農産物価格の低迷や高齢化による農家戸数の減少など地域の農業情勢は厳しく、長期的な視点における農業政策が求められている。

また、環境問題が顕在化する中、消費者の安全・安心な食料に対する関心の高まりとともに、自然環境の保全や美しい景観形成など農業の持つ多面的機能が注目されている。

このような中、本町の耕地面積は11,200ha（水田9,020ha、畑2,210ha）、米の生産調整面積は7,154ha、転作率は82.5%となっている。本町農業を支えてきた水稲作付が減少し、麦・大豆等の畑作が増加するとともに、野菜や花き、和牛繁殖など経営の複合化が進んでいる。

令和2年度、経営所得安定対策に加入している販売農家は562件で、効率的かつ安定的な農業経営を目指す認定農業者は509件となっている。

新たな農業・農村政策は、農業を足腰の強い産業としていくための産業政策と農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域政策を両輪としている。本町農業においても、大規模化への対応としての省力化や効率的生産と温暖化や豪雨など気象変動への対応を行ない、生産性向上のための取組を推進する。

担い手への農地集積は、北海道農業公社の農地保有合理化事業、農地中間管理機構の事業を活用しながら、迅速な対応・効率的な集積を推し進める。

また、都市近郊の立地条件の中で、グリーン・ツーリズムや直売所の活性化、環境保全型への取組みによる高付加価値生産、ICTを活用した技術の推進など、経営に厚みと広がりを持たせていくことが必要である。

### 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

長沼町は大消費地の札幌に近く、また新千歳空港・苫小牧港へのアクセス路が良く、物流面に大きな立地優位性をもつ。この優位性を最大活用するため、高収益作物については、作付面積の拡大と需要や市況に即応した生産による付加価値向上を目指す。

土地利用型作物は、大ロットの安定供給産地として増収と高品質化を進め、ICT導入や団地化によるコストダウンを図ることで収益力を強化していく。

また、高収益作物等の導入に向けては、水田農業高収益化推進計画の策定及び推進体制の構築をはかる。

### 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

転作作物のほ場における畑地化の取組は、各ほ場の水田機能と輪作体系の状況を農業者に定期的に確認した中、長期的な営農計画に基づき取り進める。

具体的に、土地利用型作物の生産が進む平野部においては、新規需要米・加工用米を含めた水稻を輪作体系に組み入れることで、経営の安定化を図ることができることを踏まえ、畑地化の取組の導入は慎重に行なう。土地利用型作物の生産に適さない中山間部においては、野菜・果樹などの高収益作物の生産を進め、農業者の長期的な営農計画に基づいた畑地化の取組の導入を検討する。今後の水稻作付計画がなく、水田機能を失うことが見込まれるほ場には、高収益作物の作付を推進し、畑地化に取り組めるよう支援する。

畑地化の取組を進めるにあたっては、「人・農地プラン」により描かれた地域の将来像や、担い手の農業経営改善計画、効率的な土地利用に配慮する。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

主食用米の需要量が減少する中、本町の水稻面積は水田麦・大豆の作付拡大により減少している。今後は、稲作経営の安定化に加え需要に応じた米生産への体制を図っていくことが必要であることから、水張転作も含めた水田機能の維持が求められている。

品種別作付は、「ななつぼし」が45.6%、「ゆめぴりか」36.0%、「きらら397」7.6%となっているが、「ゆめぴりか」や「ななつぼし」の良食味米と減農薬栽培に適した「きたくりん」、また、業務用米として疎植栽培に向く「そらゆき」など、単収の向上を図りながら実需者ニーズに対応した主食用米生産を行う。

### (2) 非主食用米

#### ア 飼料用米

飼料工場や、畜産農家等から安定的な供給が求められており、複数年契約を軸に、今後においても需要に応じた生産体制の構築を推進する。

#### イ 米粉用米

現状、作付計画はないが、複数年契約を基本とし実需者や生産者の意向を踏まえた取組みとする。

#### ウ 新市場開拓用米

現状、作付計画はないが、実需者や生産者の意向を踏まえた取組みとする。

#### エ WCS用稲

畜産農家との契約に基づく生産を基本に生産者の意向を踏まえた取組みとする。

#### オ 加工用米

主食用米需要量の減少が進む中、今後も複数年契約を基本とし、実需者や生産者の意向を踏まえ、作付を推進する。また、低コスト化に向けて「疎植栽培」・「直播栽培」の栽培技術を向上させ、移植栽培と同等な収量を確保できる技術の確立を目指す。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

#### ア 小麦

水田麦の安定化に向けて、基本技術の徹底と収穫体系の改善により収量の向上に取組んできた。しかし、近年の気象条件から収量の年次変動は大きいことから、パン・中華めん用向け品種の検討、用途ごとに求められる品質確保が重要である。

作付品種は、日本めん用が75.2%、パン・中華めん用が24.8%となっている。農業者の収益向上に向け収穫後の野菜の作付を推進する。

#### イ 大豆

水田大豆を主体として作付面積は全道一である。消費者の安全・安心志向により国産大豆の需要が高まる中、契約栽培の取組みによって面積が拡大してきたが、輪作等を考慮すると大幅な面積拡大にはならないことから、単収アップによる生産量の拡大を目指す。

作付品種は、大粒とよまさり70.1%、小粒ユキシズカ20.7%、その他9.2%となっており、実需者ニーズに即した高品質生産が重要である。

#### ウ 飼料作物

永年性牧草を主体に作付面積は横ばい傾向で推移している。今後においても畜産農家への供給契約を基本に取り進める。

飼料用とうもろこしについては、深根性による土壌の物理性の改善が見込めるため、輪作体系上重要な作物と位置づける。

#### (4) そば、なたね

近年作付面積は横ばい傾向で推移している。そばは、脱粒等の被害による単収変動が大きく、契約数量の安定生産のためには適期収穫と乾燥調製による品質向上が必要である。

#### (5) てん菜

生産者の高齢化や規模拡大に伴う労働力不足、政策支援の変更により他品目への作付転換により作付面積が減少している。しかし、輪作体系上重要な作物であることから、作付面積の安定化を図る必要がある。

#### (6) 小豆

経営所得安定対策等の実施により、他品目への作付転換により面積が減少している。

#### (7) 雑穀

「子実用とうもろこし」による食用供給が行われている。契約栽培による作付を推進する。

#### (8) 高収益作物（園芸作物等）

##### ア 野菜・ばれいしょ

都市近郊という立地条件の中、ばれいしょ、たまねぎ、ながねぎ、ブロッコリーなどの露地野菜やトマト、きゅうりなどの施設型野菜など、多品目野菜の作付を推進する。複合経営による所得拡大を図る。

##### イ 花き・花木

冷涼な気候と地理的優位性を活かし道内外への安定出荷と、産地表示による需要拡大を図る。また、花育活動に取り組むなど花き生産振興を図る。

##### ウ 果樹

都市近郊における観光農園や直売所販売など、消費者ニーズに即した多品目の果樹栽培に取り組むなど、地域活性化に向けた果樹振興を図る。

(9) 耕畜連携

ア わら利用

飼料用米（わら専用稲含む）作付及びわら利用による耕畜連携の取組と併せて、生産性向上の取組を推進する。

イ 水田放牧

飼料作物作付及び水田放牧による耕畜連携の取組と併せて、生産性向上の取組を推進する。

ウ 資源循環

飼料作物等の作付及び堆肥散布による耕畜連携の取組と併せて、生産性向上の取組を推進する。

(10) 二毛作・二期作

農地の有効活用を図るため、二毛作・二期作の取組を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積

| 作物等        | 前年度作付面積等<br>(ha) | 当年度の作付予定面積等<br>(ha) | 令和5年度の作付目標面積等<br>(ha) |
|------------|------------------|---------------------|-----------------------|
| 主食用米       | 1,522.1          | 1,433.3             | 1,300.0               |
| 備蓄米        | 0                | 0                   | 0                     |
| 飼料用米       | 63.6             | 107.8               | 150.0                 |
| 米粉用米       | 0                | 0                   | 0                     |
| 新市場開拓用米    | 0                | 0                   | 0                     |
| WCS用稲      | 149.8            | 155.0               | 150.0                 |
| 加工用米       | 105.9            | 100.6               | 100.0                 |
| 麦          | 2,762.9          | 2,917.5             | 2,900.0               |
| 大豆         | 2,290.1          | 2,168.1             | 2,300.0               |
| 飼料作物       | 550.0            | 554.3               | 550.0                 |
| ・子実用とうもろこし | 121.4            | 135.0               | 150.0                 |
| そば         | 46.7             | 35.9                | 50.0                  |
| なたね        | 16.8             | 8.5                 | 20.0                  |
| 高収益作物      | 720.8            | 721.2               | 800.0                 |
| ・野菜        | 687.4            | 684.2               | 760.0                 |
| ・花き・花木     | 25.3             | 29.8                | 30.0                  |
| ・果樹        | 8.1              | 7.2                 | 10.0                  |
| ・その他の高収益作物 | 0                | 0                   | 0                     |
| その他        | 80.8             | 71.7                | 75.0                  |
| ・てん菜       | 55.6             | 53.7                | 55.0                  |
| ・小豆        | 25.2             | 18.0                | 20.0                  |
| ・雑穀        | 3.3              | 3.1                 | 5.0                   |
| 畑地化        | 4.4              | 0                   | 0                     |

## 6 課題解決に向けた取組等

| 整理<br>番号 | 対象作物                         | 用途名                    | 目標                | 前年度（実績）   |   | 目標値    |        |
|----------|------------------------------|------------------------|-------------------|---|---|--------|--------|
|          |                              |                        |                   | 2020年度  | 2022年度  | 2023年度 | 2023年度 |
| 1        | 麦・大豆                         | 麦・大豆増収<br>対策助成         | 作付面積<br>収量        | 2020年度<br>麦 : 2,763ha<br>大豆 : 2,290ha<br>2020年度<br>秋小麦 : 570kg/10a<br>春小麦 : 385kg/10a<br>大豆 : 190kg/10a | 2022年度<br>麦 : 2,900ha<br>大豆 : 2,300ha<br>2023年度<br>秋小麦 : 600kg/10a<br>春小麦 : 370kg/10a<br>大豆 : 300kg/10a |        |        |
| 2        | てん菜                          | てん菜増収対策助成              | 作付面積<br>収量        | 2020年度 56ha<br>2020年度 8.0t/10a  | 2023年度 55ha<br>2023年度 7.2t/10a  |        |        |
| 3        | 小豆                           | 小豆増収対策助成               | 作付面積<br>収量        | 2020年度 25ha<br>2020年度 242kg/10a   | 2023年度 20ha<br>2023年度 245kg/10a   |        |        |
| 4        | 飼料用<br>とうもろこし                | 飼料用とうもろこし増<br>収対策助成    | 作付面積<br>収量        | 2020年度 152ha<br>2020年度 974kg/10a  | 2023年度 150ha<br>2023年度 1,100kg/10a  |        |        |
| 5        | 雑穀                           | 雑穀増収対策助成               | 作付面積<br>収量        | 2020年度 3ha<br>2020年度 639kg/10a  | 2023年度 5ha<br>2023年度 1,100kg/10a  |        |        |
| 6        | 野菜・花き・<br>果樹                 | 高収益作物加算 1              | 作付面積              | 2020年度 718ha  | 2023年度 797ha  |        |        |
| 7        | 花木                           | 高収益作物加算 2              | 作付面積              | 2020年度 3ha  | 2023年度 3.5ha  |        |        |
| 8        | そば                           | そば生産基盤<br>安定対策         | 作付面積<br>収量        | 2020年度 47ha<br>2020年度 91kg/10a  | 2023年度 50ha<br>2023年度 72kg/10a  |        |        |
| 9        | なたね                          | なたね生産力強化               | 作付面積<br>収量        | 2020年度 20ha<br>2020年度 402kg/10a   | 2023年度 20ha<br>2023年度 315kg/10a   |        |        |
| 10       | 【二毛作】<br>白菜・ブロッコリー           | 麦後野菜振興助成<br>(二毛作)      | 作付面積              | 2020年度 44ha   | 2023年度 65ha   |        |        |
| 11       | 飼料用米                         | わら利用助成<br>(耕畜連携)       | 作付面積<br>対象面積      | 2020年度 64ha<br>2020年度 30ha  | 2023年度 70ha<br>2023年度 35ha  |        |        |
| 12       | 飼料作物<br>(飼料用とうもろこしは含<br>まない) | 水田放牧助成<br>(耕畜連携)       | 作付面積<br>対象面積      | 2020年度 428ha<br>2020年度 38ha   | 2023年度 435ha<br>2023年度 46ha   |        |        |
| 13       | 飼料作物<br>WCS用稲                | 資源循環助成 1<br>(耕畜連携)     | 作付面積<br>対象面積      | 2020年度 708ha<br>2020年度 82ha   | 2023年度 710ha<br>2023年度 140ha  |        |        |
| 14       | 【二毛作・二期作】<br>飼料作物            | 資源循環助成 2<br>(耕畜連携・二毛作) | 作付面積<br>対象面積      | 2020年度 291ha<br>2020年度 278ha  | 2023年度 225ha<br>2023年度 120ha  |        |        |
| 15       | 【二毛作・二期作】<br>そば・なたね          | 二毛作・二期作助成<br>(そば・なたね)  | 作付面積<br>実施面積割合    | 2020年度 179ha<br>2020年度 6.2%   | 2023年度 225ha<br>2023年度 8.7%   |        |        |
| 16       | 【二毛作・二期作】<br>飼料作物            | 二毛作・二期作助成<br>(飼料作物)    | 作付面積<br>実施面積割合    | 2020年度 291ha<br>2020年度 10.4%  | 2023年度 300ha<br>2023年度 11.3%  |        |        |
| 17       | 【基幹作物】<br>そば・なたね             | そば・なたね助成               | 作付面積              | 2020年度 64ha   | 2023年度 70ha   |        |        |
| 18       | 新市場開拓用米                      | 新市場開拓用米<br>取組拡大助成      | 作付面積              | 2020年度 0ha  | 2023年度 3ha  |        |        |
| 19       | 飼料用米・米粉用米                    | 複数年契約加算                | 取組面積・数量<br>(飼料用米) | 2020年度 64ha・318t  | 2022年度 40ha・200t  |        |        |
|          |                              |                        | 作付面積・数量<br>(飼料用米) | 2020年度 64ha・423t  | 2022年度 50ha・250t  |        |        |
|          |                              |                        | 取組面積・数量<br>(米粉用米) | 2020年度 0ha・0t   | 2022年度 1ha・5t   |        |        |
|          |                              |                        | 作付面積・数量<br>(米粉用米) | 2020年度 0ha・0t   | 2022年度 1ha・5t   |        |        |